

「新しい自分を見つけよう！きらりキャンプ in 阿蘇③」事業報告書

企画指導専門職 三枝ひとみ

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 自然体験を通して、熊本地震の影響や不登校（不登校傾向、別室登校などを含む）など心に悩みをもつ青少年に自然体験の楽しさや達成感を感じさせ、自己肯定感を育む。また、交流の家での生活を通して、規則正しい生活のよさや友達と交流する喜びを感じさせ、基本的な生活習慣づくりのきっかけとなるようにする。
- (2) 期 日 平成29年11月18日（土）～11月19日（日） 【1泊2日】
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家
- (4) 参加者 4名（中学生4名）
- (5) 講 師 中村 しづ子 氏（乙姫焼 工房花）
- (6) 担当職員 三枝ひとみ（企画指導専門職） 安部信吾（企画指導専門職）
宮本賀通（事業推進係員） 益田力（事業支援室主任）
法人ボランティア2名
- (7) 内 容 【1日目】アルバム作り、自分たちで活動を考えよう（バドミントン・卓球）
湯のみ絵付け体験
【2日目】杵島岳登山

2 成果と課題

(1) 成 果

- 「いろいろなことをして楽しかったです。」「ボランティアとの卓球や、スタッフとのバドミン
トンの試合がすごく楽しかったです。」「登山はきつかったけれど登ることができてよかったです。」などの参加者の感想があった。活動を考えさせる場を設定し参加者の関心のあるプログラムが実施できたことや少し困難な登山体験をプログラムに取り入れたことで、参加者に楽しさや達成感を感じさせ高い満足度を得ることができた。（満足度100%）
- 「いろんな人と仲よくすることのよさや大切さが学べました。」「ボランティアやスタッフと話
せてよかった。」などの感想も聞かれた。普段関わることのない講師やボランティア、担当職員と
の活動や会話を通して、交流する楽しさを感じることができたことがうかがえた。
- 参加者への配慮事項を担当職員とボランティアで確認し、活動ごとに気づいたことを共有した。
それぞれが様子を見ながら声をかけ、最後まで落ち着いて活動できた。
- 不登校傾向だった参加者が、事業参加後、学校活動において意欲的な態度が見られるようにな
り欠席も減ったという学校職員からの情報提供があった。

(2) 課 題

- 参加者やボランティアの登山時の寒さへの対応が不十分だった。準備物等は事前に案内するだ
けでなく、当日に貸し出せるよう準備が必要である。
- 来年度に向けて、今年度の様子を阿蘇郡市の学校や適応指導教室に知らせる必要がある。